

令和8年度 福岡市埋蔵文化財センター考古学講座

鴻臚館

—アジアの交流拠点都市
福岡の原点をひもとく—

第1回 令和8年7月25日(土) 坂上 康俊 氏 (九州大学名誉教授)

「那津官家から鴻臚館へ」



会場

福岡市美術館

福岡市中央区大濠公園1-6

時間

13時15分～15時00分

※終了時間は多少前後する場合があります。

定員

250名(事前申し込み制)

※申し込み方法についてはホームページでお知らせします。

埋蔵文化財センターホームページ <http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/maibun/>

問い合わせ先：福岡市埋蔵文化財センター

〒812-0881 福岡市博多区井相田2-1-94 電子メール：maibun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp
TEL：092-571-2921 FAX：092-571-2825

【背景】鴻臚館北館東門（復元図）

第2回考古学講座の申し込みについて

今後開催する講座につきましても、各回ごとにお申し込みが必要となります。

第2回講座の申し込みについては8月3日に当センターHPの新着情報へ掲載する予定です。

※市政だよりへの掲載はございませんのでご注意ください。

ぜひ次回以降もご応募いただけますと幸いです。

■申込方法：往復はがき・メールいずれかの方法で1通まで。

代表者や小さなお子様を含め、1通につき最大2名まで申込可能です。

■必要事項

【代表者】

- ・氏名（ふりがな）
- ・電話番号（日中連絡のとれる電話番号）
- ・郵便番号・住所
- ・年齢

【参加者】

- ・氏名（ふりがな）
- ・年齢

【その他】

（車椅子で来場予定の方、来場の際にベビーカーを利用予定の方、お手伝いが必要な方はあらかじめお知らせください。）

那津官家から鴻臚館へ

坂上 康俊

【1】那津官家とは

『日本書紀』宣化天皇元年（536）5月朔条

詔曰。食者天下之本也。黄金萬貫不可療飢。白玉千箱何能救冷。夫筑紫国者、遐迹之所朝届、去来之所関門。是以海表之國、候海水以來賓、望天雲而奉貢。自胎中之帝泊于朕身、收藏穀稼、蓄積儲糧、遥設凶年、厚饗良客。安國之方、更無過此。故朕遣阿蘇仍君（未詳也）、加運河内国茨田郡屯倉之穀。蘇我大臣稻目宿禰、宜遣尾張連運尾張国屯倉之穀。物部大連鹿火、宜遣新家連運新家屯倉之穀。阿倍臣、宜遣伊賀臣運伊賀国屯倉之穀。修造官家那津之口。又其筑紫・肥・豊三国屯倉、散在縣隔、運輸遥阻。儻如須要、難以備卒。亦宜課諸郡分移、聚建那津之口、以備非常、永為民命。早下郡県、令知朕心。

「詔して曰く。食は天下の本なり。黄金万貫も飢を療すべからず。白玉千箱も何ぞ能く冷を救ふあたはむ。夫れ筑紫の国は、遐迹の朝届るところ、去来の関門にするところなり。是を以って海表の国、海水を候ひて来賓し、天雲を望みて奉貢す。胎中之帝より朕が身に泊ぶまで、穀稼を收藏し、儲糧を蓄積し、遥かに凶年に設け、厚く良客に饗す。国を安んずるの方、更に此に過ぐるは無し。故に朕、阿蘇仍君を遣はして（未詳なり）、河内国の茨田郡の屯倉の穀を加へ運ばしむ。蘇我大臣稻目宿禰は、尾張連を遣はして尾張国の屯倉の穀を運ばしむべし。物部大連鹿火は、新家連を遣はして新家屯倉（伊勢国に所在か）の穀を運ばしむべし。阿倍臣は、伊賀臣を遣はして伊賀国の屯倉の穀を運ばしむべし。官家を那津之口に修造せよ。また其の筑紫・肥・豊三国の屯倉は、散じて縣隔に在り、運輸遥かに阻つ。もし須要ならば、以て卒かに備へむこと難からむ。また諸郡に課せて分移せしめ、那津之口に聚め建て、以て非常に備へ、永く民命と為せ。早く郡県に下し、朕が心を知らしめよ」

論点Ⅰ この詔書は、本当に 536 年に出了れたのか？

i 『日本書紀』の繫年通り宣化元年（536 年）……通説

ii 6 世紀後半に置くべきでは（酒井芳司説）

・ 562 年に「任那」（大加羅＝高靈）滅亡（『日本書紀』）という危機に対応して

・ 比恵遺跡の年代観にできるだけ近づける

※なぜ 536 年に設けたか？あるいは、なぜ 536 年に繰り上げたか？……金官伽耶の新羅への併合（532 年）に対応か。

論点Ⅱ 近畿以東からの運穀命令

i 難波屯倉に運ばせる記事が混入したか（森田隆明説）

ii 阿蘇君はたまたま上番していて、筑紫まで運ばせた（田中史生 2012 説『ミヤケと渡来人』予稿集）。

※ i だと、なぜ茨田屯倉からの運穀者として阿蘇君が出てくるのか不明

ii だと、屯倉は播磨・備後・婀娜にも置かれているのに、わざわざ尾張から運ばせるのは疑問

論点Ⅲ 意義…運穀システム自体の成立（酒井芳司説）

後の大宰府の財政を支える筑紫（筑前・筑後）・豊（豊前・豊後）・肥（肥前・肥後）地域という関係の淵源

⇒大宰府の濫觴

論点Ⅳ 「官家」「屯倉」「ミヤケ」とは

「屯倉」…よく事情が分かる例としての吉備の「児島屯倉」「白猪屯倉」
朝廷から田令を派遣、田部の丁籍を作成して経営
王権に直結する、定期的食料供給源としての「茨田屯倉」
旧説…田部が置かれ、(屯倉)首と、中央から派遣される田令(田領)
がいる。

⇒朝廷の直轄する田土経営の拠点

舘野和己説…政治的軍事的拠点←「那津官家」や朝鮮半島内の「官家」
のように田土経営とは直接関係ない官家がある。

仁藤敦史説…貢納奉仕の拠点←(『日本書紀』大化元年(645)8月5日
条の東国国司詔に見える、国造・伴造(地方伴造)・
県稻置(コホリの稻置)らが管掌している「官家」

※両説は和語としての「ミヤケ」を一括して説明しようとするもの。『日本
書紀』では、田土経営の拠点は「屯倉」、地方支配の拠点は「官家」と書き
分けたのではないか。

⇒那津官家は、倉庫群だけではなく、管理棟と出納・警備等の管理者が必要
筑紫三宅連を設定・配置か。筑紫三宅連は、『古事記』神武天皇段による
と、多朝臣・少子部宿祢・坂合部連・阿蘇君と同族で、神武の長子・神八
井耳命が祖先とされている。『類聚国史』延暦12年8月条に、「筑前国
那賀郡人三宅連真継」あり。
初代は東光寺剣塚の被葬者か。

【2】那津官家はどこか

i 旧説 ミヤケの地名(南大橋1丁目)

→寺院跡(三宅廃寺)を検出、官衙・倉庫群は見つからず

ii 比恵遺跡 規則的に建てられた大型竪穴倉庫群と布掘り三本柱列の堀
ただし、6世紀半ば以降で、宣化天皇時代より後

iii 那珂遺跡 有田遺跡(後に早良郡衙に発展)や比恵遺跡と同規格の倉庫群
時期はやはり6世紀後半から
特に114次調査では、6世紀末頃に掘削された方形区画溝を検出、
一辺90mか。7世紀後半まで存続。

※施設の系譜の想定案(年表参照)

那津官家の系譜

推古朝初期までの筑紫将軍所

『日本書紀』崇峻天皇4年(591)11月壬午(4)条

差紀男麻呂宿祢・巨勢巨比良夫・狹臣・大伴嚙連・葛
城烏奈良臣、為大將軍率氏臣連為裨將部隊、領二萬
余軍、出居筑紫。遣吉士金於新羅、遣吉士木蓮子於任
那、問任那事。

『日本書紀』崇峻天皇5年(592)11月丁未(5)条

遣使於筑紫將軍所曰「依於内乱莫怠外事」。

『日本書紀』推古天皇3年(595)7月条

將軍等至自筑紫。

『日本書紀』推古10年(602)の来目皇子下向時の最初の上陸地
(「將軍来自皇子到于筑紫。乃進屯嶋郡、而聚船舶運軍粮」すぐ嶋郡へ)

『日本書紀』推古16年4月裴世清の来日

……来日は予想されていなかったため、既存の設備を使用のはず

『日本書紀』推古17年4月「筑紫大宰」の初見

『日本書紀』齐明天皇7年(661)3月25日条

「御船還至于娜大津。居于磐瀬行宮。天皇改此名曰長津」

朝倉宮と異なり、建設記事が無い→既存の施設か。

これを「長津宮」と改称。ナガツ=ナガツ、すなわち、ナのと

ここで、大海人皇子が白村江戦の指揮、敗戦処理に当たったはず。
こう繋げられれば、那津は磐瀬周辺にあることになる。

- 磐瀬はどこか？（cf. 石瀬駅は官道の整備の後の配置）
- 【3】大宰府政庁と筑紫館（後の鴻臚館）の成立
- 『日本書紀』天智天皇 6 年(667)11 月乙丑(9) 条
百濟鎮將劉仁願遣熊津都督府熊山縣令上柱国司馬法聰等、送大山下
境部連石積等於筑紫都督府。（政庁の場所には何もないから長津か）
- 『日本書紀』天武天皇 2 年(673)11 月壬申(21) 条
饗高麗邯子・新羅薩儒等於筑紫大郡。賜祿各有差。
（長津宮ないしその後身施設を指すか。筑紫大宰の拠点）
- 『日本書紀』持統天皇 2 年(688)2 月己亥(10) 条
饗（新羅使金）霜林等於筑紫館。賜物各有差。
（筑紫館＝鴻臚館の供用開始。金霜林は、前年 9 月から筑紫に滞在）
- 『日本書紀』持統天皇 2 年(688)9 月戊寅(23) 条
饗耽羅佐平加羅等於筑紫館。賜物各有差
- 『日本書紀』持統天皇 3 年(689)6 月乙巳(24) 条
於筑紫小郡設新羅弔使金道那等。賜物各有差。
（旧「大郡」を「小郡」と改称？後の那珂郡衙に繋がるか？）
- 『日本書紀』持統天皇 3 年(689)9 月己丑(10) 条
遣直広参石上朝臣麿・直広肆石川朝臣虫名等於筑紫、給送位記、且監
新城。（大宰府政庁と条坊を指す。この時竣工か）

参考）難波の諸宮の変遷（の 1 案）

子代屯倉（難波屯倉）〔難波宮下層遺構〕→子代離宮…味経宮→難波長柄豊碕宮〔前期難波宮〕

難波小郡（その一部が蝦蟇（川津）行宮）→小郡宮

大郡宮

（市大樹「孝徳朝難波諸宮の史料的研究」「大化改新と難波諸宮」「宮都の変遷と畿内の交通路」

『日本古代の宮都と交通』塙書房、2024 年）

【4】大宰府政庁と鴻臚館のプランの変遷と用途

680 年代……政庁Ⅰ期建物（不定形 or 長舎型〈コの字型〉政庁）と鴻臚館Ⅰ期建物（長舎型〈コの字型〉建物と宿舍の併存）の造営

710 年代…政庁Ⅱ期（朝堂院型〈コの字型〉建物配置）と鴻臚館Ⅱ期（南館のみ）の造営、水城の東西の門の改造＝水城東西ルートの整備

図1 比恵・那珂遺跡群の位置（菅波正人『鴻臚館跡』）

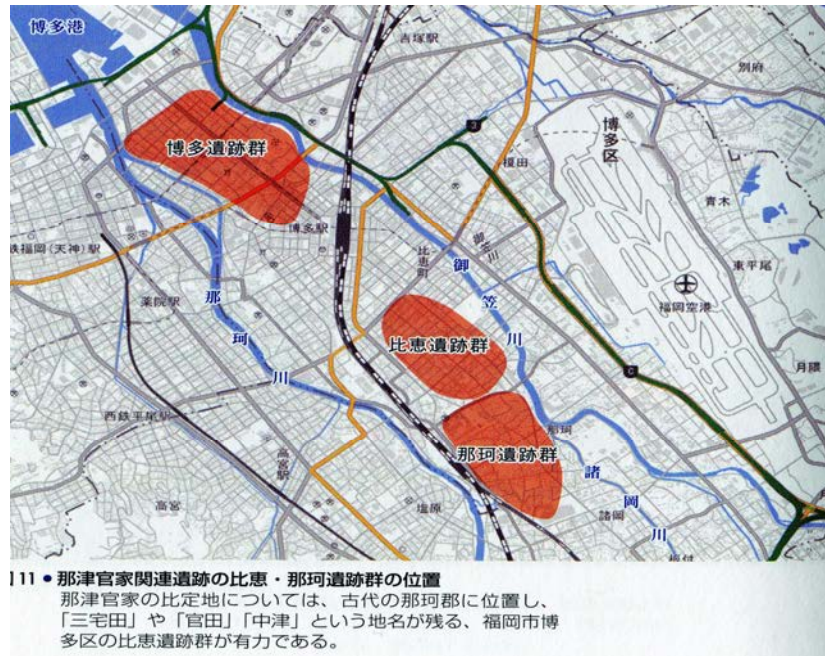


図2 比恵遺跡の倉庫・三本柱列（8次・72次調査区合成）

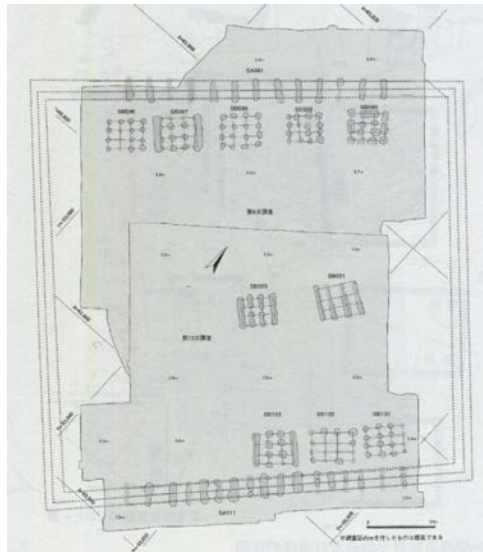


図3 大宰府政庁遺構変遷図（九州歴史資料館）

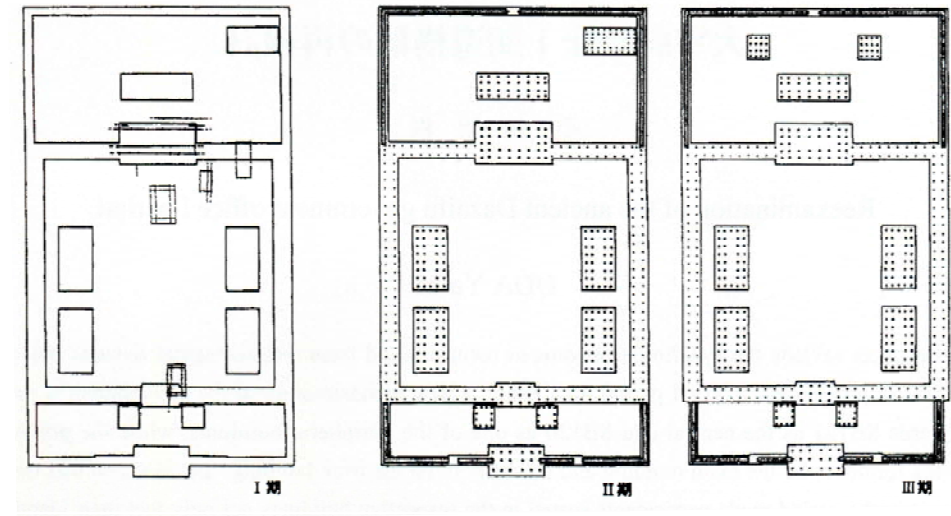


図4 大宰府政庁 I 期復原模式図（小田裕樹）

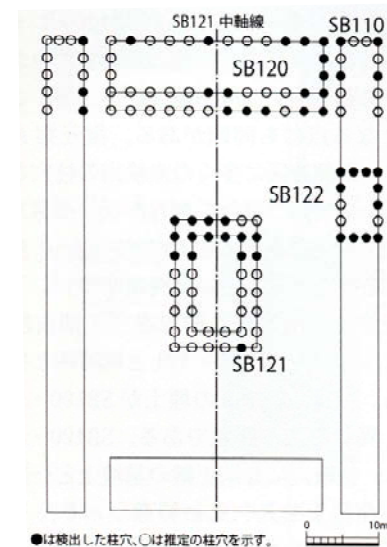


図6 鴻臚館 I 期建物配置復原図

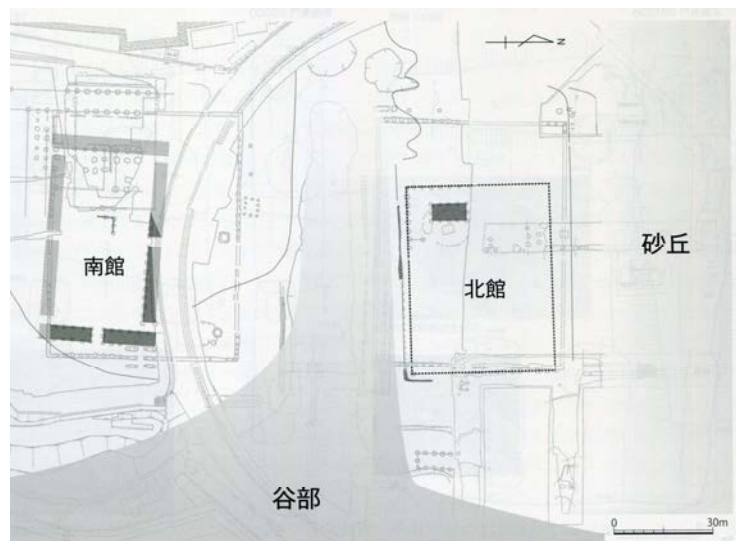


図7 鴻臚館跡遺構変遷図

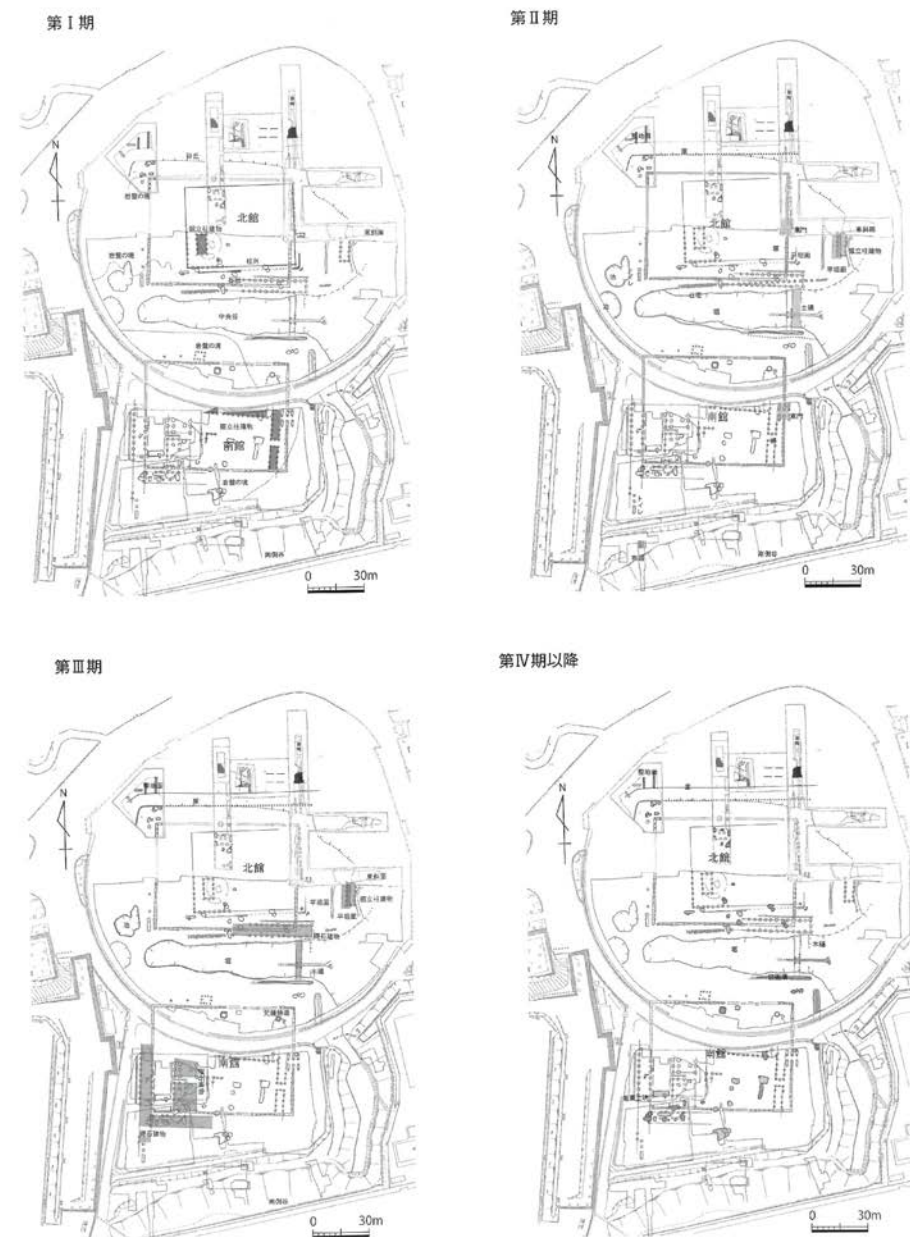
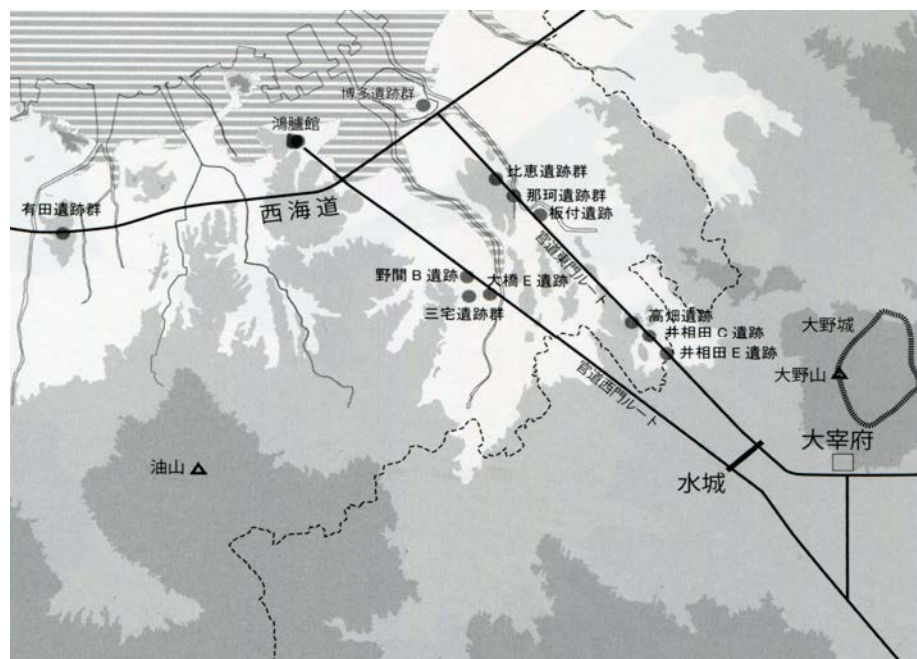


図8 水城東門・西門ルート



西暦	和暦	筑紫での動静が明記された対外交渉史料	難波等の外交施設関係史料・その他
536	宣化元	5/1筑紫国那津に官家を造り、諸国の屯倉の穀を聚め運ぶ	
537	宣化2	10/1新羅が任那を攻撃したので、大伴金村の子磐・狭手彦を遣わす。磐は筑紫に留まって三韓に備え、狭手彦は渡海して任那を守り、また百済を救援。	
554	欽明15	1/9百済、中部木笏施徳文次・前部施徳曰佐分屋らを、筑紫の内臣らの許に遣わし、渡海の予定・軍兵の人数等について問う。内臣、援軍1000人・馬100匹・船40隻を送ることを伝える。 3/1百済使中部木笏施徳文次ら、帰国。 5/3内臣、援軍を率いて渡海。6月、百済に至る。（翌年、百済・聖明王戦死）	
556	欽明17	1/ 百済の王子恵、帰国。兵仗・良馬を与え、阿倍臣・佐伯連・播磨直らの率いる筑紫の水軍に護送させる。別に筑紫火君を派遣し、勇士1000人を率いて要害を守らせる。	
561	欽明22		新羅使、難波大郡における儀式において百済使の下位に序列されたことを怒り、館舎に入らずして帰国（任那官家＝大伽耶、新羅に滅ぼされる）
562	欽明23		
570	欽明31		4/2高句麗使のために山背国相楽郡に客館を建てさせる 7/ 高句麗使を高槻館（相楽館）に迎え、饗応
572	敏達元		5/1使者を相楽館に遣わし、調を検録して都に送らせる。
583	敏達12		12/30これより先、日羅ら、吉備児島屯倉を経て、難波館に到る。ついで阿斗桑市に客館を造り安置
591	崇峻4	11/4紀男麻呂・巨勢猿・大伴嚙・葛城烏奈良を大將軍とし、2万余の軍とともに筑紫に派遣。	
592	崇峻5	11/5蘇我馬子、馭使を筑紫の將軍紀男麻呂らの許に遣わし、国内の混乱（崇峻暗殺）によって外事（任那問題）を怠ることのないよう戒める。	
595	推古3	7/ 新羅征討將軍ら、筑紫より帰還	
600	推古8	（遣隋使）	
602	推古10	2/1来目皇子を撃新羅將軍に任じ、兵2万5000を授ける。 4/1来目皇子、筑紫に到り、嶋郡に駐屯、船を聚め、軍糧を運ぶ。	
603	推古11	2/4来目皇子、筑紫において歿。	
607	推古15	（遣隋使・小野妹子）	
608	推古16	4/ 小野妹子、隋使裴世清ら12人を伴い、百済を経て筑紫に帰着。難波雄成を遣わして裴世清らを京師に招く。	4/ 隋使のために新たに客館を難波に建てる。 6/15裴世清ら難波津に到り、新館に安置さる。 9/5裴世清らを難波大郡において饗す。
609	推古17	4/4筑紫大宰、百済僧道欣ら僧俗85人が肥後国葦北津に来着したことを報ず。	
610	推古18	7/ 新羅使奈末竹世士、任那使大舎首智買と共に筑紫に到る。	10/8新羅・任那使、京に到り、阿斗河辺館に安置される。
630	舒明2	（第1回遣唐使。）	この年、難波大郡と三韓館を改修
632	舒明4		10/4 唐使高表仁ら、難波津に到る。大伴馬養を江口に遣わして歓迎し、ついで客館に安置する。
642	皇極元	1/29これより先、阿墨比羅夫、百済使を伴い筑紫に帰着（派遣の年月不詳）。この日、比羅夫、馭馬により入京。	2/6高句麗使、難波に到る。諸大夫を難波郡に遣わして高句麗使の献上する金銀等の品物を調べさせる 2/22高句麗・百済使を難波郡に饗す。
643	皇極2	4/21筑紫大宰、馳駆して、百済王子翹岐らが調使と共に来着したことを報ず。 6/13筑紫大宰、馳駆して、高句麗使の来朝を報ず。	3/13難波の百済客館堂、罹災 7/3諸大夫を難波郡に派遣して百済使のもたらした

			調と献上品を調べさせる。
645	大化元		7/10百済大使佐平縁福、病気により津館（難波客館）に留まり、入京せず。
647	大化2		この年、難波小郡を建て替えて宮とし、天皇、行幸する。
651	白雉2	この年、新羅貢調使知万沙漚ら、唐国の服を着て筑紫に到る。帰国させる。	
653	白雉4		5/21遣唐使、2船に分乗して唐に向かう。121人乗りと120人。ともに大使・副使が率い、学問僧・学生らが乗る。 6/ 百済・新羅使、調を貢し、物を献ず。所々の大道を修治)
654	白雉5	7/24遣唐大使吉士長丹ら、百済・新羅の送使と共に筑紫に帰着。	
657	斉明3	7/3筑紫に漂着した吐火羅人男女6人を京に招く。	
659	斉明5	8/11遣唐使坂合部石布ら、筑紫大津浦を発す。	7/3遣唐使坂合部石布ら、2船に分乗して難波三津浦を発し、筑紫に向かう。
660	斉明6	1/1高句麗使乙相賀取文ら100人、筑紫に到る。	5/8高句麗使、難波館に到る。 （百済滅亡）
661	斉明7	3/25天皇、那大津に到り、磐瀬行宮に到着、同所を長津と改称。 5/23遣唐使津守吉祥ら、筑紫の行在所朝倉橘広庭宮に帰着。 7/ 中大兄、長津宮に遷都し、海外の軍政を掌握する。	
663	天智2		(8/27-8白村江戦)
664	天智3	5/17唐の百済鎮将劉仁願の使郭務悰ら、対馬を経て筑紫に到る。 9/ 郭務悰に、百済鎮将の私使なので入京させない旨を筑紫大宰の辞として告げる。 この年、対馬・壱岐・筑紫等に防人を置き、とぶひを設け、筑紫に水城を築く。	
665	天智4	8/ 憶礼福留・四比福夫を筑紫国に遣わして、大野・椋の2城を築かせる。 9/20唐使劉徳高・百済禰軍・郭務悰ら254人、対馬を経て筑紫に到る。	
667	天智6	11/9百済鎮将劉仁願の使司馬法聰ら、坂合部石積らを送って筑紫都督府に到る。	
668	天智7		(高句麗滅亡)
671	天智10	11/2これより先、対馬国司、郭務悰ら2000人来日予定の旨を大宰府に報ず。その後郭務悰ら筑紫に来着して大津館に安置される。（書紀・善隣国宝記）	
672	天武元	3/18 これより先、使者を筑紫に遣わし、天智天皇の喪を郭務悰に告げる。 11/24新羅使金押実らを筑紫において饗し、禄物を賜う。	(6/24-7/26壬申の乱)
673	天武2	閏6/24新羅の送使貴干宝らを筑紫において饗す 8/20高句麗使邯子ら、新羅使金利益に送られて筑紫に到り、朝貢。 11/21高句麗使邯子・新羅使薩儒らを筑紫大郡において饗し、禄物を賜う。	9/28 新羅使金承元らを難波において饗す。
675	天武4	3/14 新羅送使金風那らを筑紫において饗す。 8/1 耽羅の調使王子久麻伎、筑紫に到る 8/28新羅・高句麗2国の調使を筑紫において饗し、禄物を賜う 10/16筑紫より送られてきた唐人30名を遠江国に居住させる	4/ 新羅王子金忠元、難波に到る。 8/25金忠元、難波より帰途につく。 9/27耽羅王姑如、難波に到る
676	天武5	11/3 新羅使金清平らを送使被珍那らが筑紫まで送る。 11/23高句麗使大使後部主簿阿干ら、新羅使金楊原に送られて筑紫に到り、朝貢	
677	天武6	4/14 新羅送使被珍奈らを筑紫において饗す。	
679	天武8	2/1 高句麗使桓父ら、新羅送使に送られて筑紫に到り、朝貢。	
680	天武9	4/25 新羅使金項那らを筑紫において饗し、禄物を賜う。	

		5/13 高句麗使卯問ら、新羅使考那に送られて筑紫に到り朝貢。	
681	天武10	4/17 高句麗使卯問らを筑紫において饗し、禄物を賜う。 6/5 新羅使金若弼を筑紫において饗し、禄物を賜う。 12/10 河辺子首を筑紫に遣わし、新羅使金忠平を饗す。	
682	天武11	1/11筑紫において新羅使金忠平を饗す 6/1高句麗使婁毛切らが新羅使金釈起に送られて筑紫に到り、方物を貢ず。 8/3筑紫において高句麗使を饗す。	
684	天武13	12/6入唐留学生土師甥・白猪宝然および唐軍の捕虜が、新羅使金物儒に送られて筑紫に帰着	
685	天武14	3/14 新羅使金物儒を筑紫において饗す。	
686	朱鳥元	1/ 新羅使金智祥を饗するため、川内王・大伴安麻呂・藤原大島らを筑紫に遣わす。 4/13新羅使を饗するため、川原寺の伎楽を筑紫に運ぶ。 4/19新羅使の調物を筑紫より進上する。 5/29 新羅使金智祥らを筑紫において饗し、禄物を賜う。 閏12/ 筑紫大宰、高句麗・百済・新羅三国の62人を送上。	
687	持統元	4/10 筑紫大宰、帰化新羅人僧尼及び百姓男女合わせて22人を進上。 9/23 筑紫大宰、新羅使王子金霜林らに天武天皇の死去を告げる	
688	持統2	2/2 筑紫大宰、新羅の調など100余種を進める。 2/10 新羅使金霜林らを筑紫館において饗し、禄物を賜う。 9/23 耽羅使加羅らを筑紫館において饗し、禄物を賜う。	
689	持統3		(5/22 新羅の無礼・違例を指摘)
690	持統4	6/20 筑紫大宰栗田真人に詔して、学問僧明聡らが新羅の師友に送るための綿を支給させる。 6/24 新羅弔使金道那らを筑紫小郡において饗し、禄物を賜う。	
692	持統6		11/11新羅使朴億徳らを難波館において饗し、禄物を賜う。
694	持統8		(12/6 藤原京に遷都)
697	文武元	11/11陸路と海路で使者を筑紫に遣わして、新羅使金弼徳らを迎えさせる。	
698	文武2		(1/1 大極殿で朝賀。新羅使も拝賀)
699	文武3		
700	文武4		(6/3 筑紫総領に勅して、南九州の反逆者を決罰させる)
703	大宝3		閏4/1 新羅使を難波館において饗す
706	慶雲3		1/7 新羅使を朝堂において饗し、諸方の楽を奏す。